

| | |
|------------|---|
| 1 研修事業名 | 令和元年度 福祉の仕事学び直し研修（旧：非正規職員向け研修） 「援助のプロとなるために」 |
| 2 事業目的・ねらい | 福祉の現場は、多様な職種、雇用形態の職員によるチームワークで支えられており、経験や雇用形態を問わず、一人ひとりが対人援助のプロでなければなりません。一方、人材不足が課題とされる福祉の現場では、福祉未経験で入職された方も多く活躍されていますが、なかには社会福祉の理念や基礎知識を学ぶ機会がないまま、戸惑いや不安を抱えながら支援に携わっている方も少なくないのではないのでしょうか。 そこで今回は、有期雇用職員および福祉未経験で入職した方を対象に、社会福祉の基本理念や利用者とのコミュニケーションなどを改めて学び、福祉の仕事の基本に立ち返り、対人援助のプロとしてより成長することを目的に、標記研修を開催します。 |
| 3 到達目標 | 研修を通じて、福祉職に求められる資質・知識・技術を学び、支援者としての成長目標を考えることができる。 |
| 4 対象者 | 県内の福祉職場で働く職員で、下記いずれかに該当する方 ①有期雇用職員（契約職員、嘱託職員、非常勤職員、パートタイム職員など） ②福祉未経験で入職した職員（他分野からの転職者等） |

| | |
|----------------|--|
| 5 科目名 | 対人援助に必要なコミュニケーション |
| 6 講義担当者名 | 諏訪 茂樹（東京女子医科大学 准教授） |
| 7 講義の日程 | 令和元年 11 月 18 日（月曜日）10 時から 12 時 30 分まで |
| 8 時間数 | 2 時間 30 分 |
| 9 講義の方法 | 講義、演習等 |
| 10 科目のねらい | 対人援助職の特徴を理解し、より良い支援をするための利用者とのコミュニケーションについて学ぶ |
| 11 科目の内容 | ・ コミュニケーションとは何か ・ 指導と援助の違い ・ コミュニケーション技法のロールプレイ ・ ケーススタディ |
| 12 使用テキスト | 講師作成のレジュメ |
| 13 事前課題等(レポート) | なし |
| 14 使用機材 | |

| | |
|------------|--|
| 1 研修事業名 | 令和元年度 福祉の仕事学び直し研修（旧：非正規職員向け研修） |
| 2 事業目的・ねらい | <p>福祉の現場は、多様な職種、雇用形態の職員によるチームワークで支えられており、経験や雇用形態を問わず、一人ひとりが対人援助のプロでなければなりません。一方、人材不足が課題とされる福祉の現場では、福祉未経験で入職された方も多く活躍されていますが、なかには社会福祉の理念や基礎知識を学ぶ機会がないまま、戸惑いや不安を抱えながら支援に携わっている方も少なくないのではないのでしょうか。</p> <p>そこで今回は、有期雇用職員および福祉未経験で入職した方を対象に、社会福祉の基本理念や利用者とのコミュニケーションなどを改めて学び、福祉の仕事の基本に立ち返り、対人援助のプロとしてより成長することを目的に、標記研修を開催します。</p> |
| 3 到達目標 | 研修を通じて、福祉職に求められる資質・知識・技術を学び、支援者としての成長目標を考えることができる。 |
| 4 対象者 | <p>県内の福祉職場で働く職員で、下記いずれかに該当する方</p> <p>①有期雇用職員（契約職員、嘱託職員、非常勤職員、パートタイム職員など）</p> <p>②福祉未経験で入職した職員（他分野からの転職者等）</p> |

| | |
|----------------|--|
| 5 科目名 | 援助のプロとなるために |
| 6 講義担当者名 | 鈴木 敏彦（和泉短期大学 教授） |
| 7 講義の日程 | 令和元年11月18日（月曜日）13時30分から16時30分まで |
| 8 時間数 | 3時間 |
| 9 講義の方法 | 講義、演習等 |
| 10 科目のねらい | 福祉職の特徴や専門性を理解し、援助のプロとして成長するために必要な自己研鑽について考える |
| 11 科目の内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 個別援助における“援助関係の原則” ・ 対人援助の専門職にもとめられる職業倫理 ・ “利用者中心の援助”を考える |
| 12 使用テキスト | 講師作成のレジュメ |
| 13 事前課題等(レポート) | なし |
| 14 使用機材 | パソコン・プロジェクター |